

愛称 インカム・コレクション

ピクテ・インカム・コレクション・ファンド(毎月分配型)

追加型投信/内外/資産複合 [設定日:2006年12月28日]

「投資リスク」の項目も必ずお読みください。

- 1 主に世界の高配当利回りの資産株と世界のソブリン債券に投資します
- 2 特定の銘柄、国や通貨に集中せず、分散投資します

- 3 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います(分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。)

※実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

Comment – 今月のコメント

当月の基準価額(分配金再投資後)は前月末より上昇しました。株式は、米国など先進国の公益セクターの銘柄や、台湾の情報技術セクターの銘柄の上昇などが基準価額にプラスに寄与しました。債券は、市場予想を下回る米国の経済指標の発表や英国やユーロ圏での年内の利下げ転換を織り込む動きなどを背景に上昇し、基準価額にプラスに寄与しました。為替は、英ポンドやユーロなどの通貨が円に対して上昇したことから基準価額にプラスに寄与しました。

Info – ファンドの基本情報

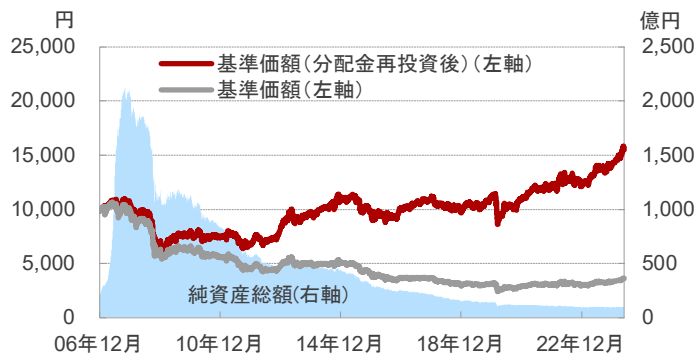
ファンドの現況

	24年04月末	24年05月末	前月末比
基準価額	3,528円	3,567円	+39円
純資産総額	97億円	97億円	+0億円

ファンドの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
騰落率	1.39%	6.07%	9.72%	17.55%	28.82%	54.63%

設定来の推移



分配金実績(1万口あたり、税引前)

決算期	24年03月15日	24年04月15日	24年05月15日	設定来累計
分配金実績	10円	10円	10円	6,900円
基準価額	3,387円	3,437円	3,613円	--

※基準価額は、各決算期末値(分配金落ち後)です。あくまでも過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

Point – ファンドのポイント

「投資リスク」の項目も必ずお読みください。

先進国だけでなく新興国にも投資し、円安やインフレに対応することが期待できるバランス・ファンドです。

※投資にあたっては、次の投資信託証券への投資を通じて行います。○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-先進国インカム株式ファンド(当資料において「先進国インカム株式ファンド」という場合があります) ○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-新興国ハイインカム株式ファンド(当資料において「新興国ハイインカム株式ファンド」という場合があります) ○ピクテ・先進国ソブリン・マザー・ファンド(当資料において「先進国ソブリン・マザー・ファンド」という場合があります) ○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-新興国ソブリン・ファンド(当資料において「新興国ソブリン・ファンド」という場合があります)

各項目の注意点 [ファンドの現況][設定来の推移]基準価額は信託報酬等控除後です。信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。純資産総額およびその前月末比は、1億円未満を切り捨てて表示しています。基準価額(分配金再投資後)は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。[ファンドの騰落率]各月最終営業日ベース。ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資して計算しています。[基準価額変動の内訳]月次ベースおよび設定来の基準価額の変動要因です。基準価額は各月末値です。設定来の基準価額は基準日現在です。組入ファンドの価格変動要因を基に委託会社が作成し参考情報として記載しているものです。各項目(概算値)ごとに円未満は四捨五入しており、合計が一致しない場合があります。その他には信託報酬等を含みます。資産別では、組入ファンドの管理報酬等は株式、債券に含まれます。

◆コメントの内容は、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものでも、その推奨を目的としたものでもありません。

◆当資料における実績は、税金控除前であり、実際の投資者利回りとは異なります。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

巻末の「当資料をご利用にあたっての注意事項等」を必ずお読みください。

[ご参考]基準価額変動の内訳 – ファンド別

	24年04月	24年05月	設定来
基準価額	3,528円	3,567円	3,567円
変動額	+66円	+39円	-6,433円
うち 先進国インカム株式ファンド	+26円	+26円	+239円
新興国ハイインカム株式ファンド	+27円	+11円	+677円
先進国ソブリン・マザー・ファンド	+16円	+6円	+133円
新興国ソブリン・ファンド	+10円	+10円	+435円
分配金	-10円	-10円	-6,900円
その他	-3円	-4円	-1,017円

[ご参考]基準価額変動の内訳 – 資産別

	24年04月	24年05月	設定来
基準価額	3,528円	3,567円	3,567円
変動額	+66円	+39円	-6,433円
うち 株式	+7円	+35円	+1,781円
債券	-26円	+9円	+1,854円
為替	+98円	+10円	-2,151円
分配金	-10円	-10円	-6,900円
その他	-3円	-4円	-1,017円

ファンド別構成比

ファンド名	銘柄数	構成比
先進国インカム株式ファンド	37	29.7%
新興国ハイインカム株式ファンド	90	19.6%
先進国ソブリン・マザー・ファンド	124	29.9%
新興国ソブリン・ファンド	59	19.8%
コール・ローン等、その他	--	1.0%
合計	310	100.0%

※四捨五入の関係上、構成比の合計が100%にならない場合があります。

Portfolio – ポートフォリオの状況

地域別構成比

地域名	構成比
1 新興国	39.3%
2 北米	32.8%
3 欧州	24.2%
4 日本	0.8%
5 アジア・パシフィック他	0.6%
預金等、その他	2.4%
合計	100.0%

国別構成比

組入国数 47カ国

国名	構成比
1 米国	28.5%
2 英国	6.3%
3 中国	5.0%
4 ブラジル	4.9%
5 フランス	4.4%
6 カナダ	4.3%
7 スペイン	4.2%
8 イタリア	3.8%
9 メキシコ	3.5%
10 南アフリカ	3.0%
その他の国	29.9%
預金等、その他	2.4%
合計	100.0%

通貨別構成比

組入通貨数 35通貨

通貨名	構成比
1 米ドル	30.0%
2 ユーロ	18.4%
3 英ポンド	6.6%
4 ブラジルリアル	4.7%
5 カナダドル	4.3%
6 香港ドル	4.1%
7 メキシコペソ	3.3%
8 南アフリカランド	3.0%
9 韓国ウォン	2.9%
10 台湾ドル	2.3%
その他の通貨	18.1%
預金等、その他	2.4%
合計	100.0%

◆ファンドの主要投資対象である先進国インカム株式ファンド、新興国ハイインカム株式ファンド、先進国ソブリン・マザーファンド、新興国ソブリン・ファンドの状況です。◆構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。◆株式への投資と同様な効果を有する証券がある場合、株式に含めています。◆新興国の株式や債券等は米ドルなどの先進国通貨で発行されているものがあり、それらに投資を行うことがあります。このため、各通貨の構成比と投資証券の国別構成比は異なることがあります。◆コメントの内容は、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものでも、その推奨を目的としたものでもありません。

Market – 市場の状況

5月の株式市場概況

先進国株式市場(現地通貨ベース)は、4月の米雇用統計が市場予想を下回る結果となったことや4月の米消費者物価指数(GPI)の伸びが鈍化したことなどをを受けて米国の早期利下げ観測が強まったことや、欧州中央銀行(ECB)や英中央銀行(BOE)が近く利下げに転換するとの見方などをを受けて、中旬にかけて上昇基調となりました。また良好な企業決算も株価の上昇要因となりました。その後、下旬には、米国の根強いインフレ懸念や米国の金融当局者が利下げの時期について慎重な見通しを示したこと、米国国債の低調な入札結果やユーロ圏の景況感改善などを受け長期金利が上昇したことなどが影響し株式市場は下落しましたが、月を越せば先進国株式市場(現地通貨ベース)は上昇しました。業種別では、情報技術、公益事業などが大きく上昇した一方で、エネルギー、一般消費財・サービスが下落しました。新興国株式市場(配当込み、現地通貨ベース)は、月初にパウエル米連邦準備制度理事会(FRB)議長が追加利上げの可能性は低いと発言したことや、月半ばに発表された米CPIの伸びが鈍化したことなどから、米国の年内利下げ期待も高まったことで、投資家に安心感が広がり、月半ばにかけて上昇基調となりました。また、中国当局が、不動産市場のテコ入れ策を発表したこと、プラス材料となりました。その後、根強いインフレ圧力を受けて米長期金利が再び上昇したことや、米ハイテク株などが投資家心理にマイナスの影響を及ぼし、月末にかけて下落基調となったものの、前月末比では上昇を維持して月を終えました。

5月のソブリン債券市場概況

先進国ソブリン債券市場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)で追加利上げに対する否定的な姿勢が示唆されたことや、4月の米雇用統計が労働市場の減速を示したことに加えて、英国やユーロ圏での年内の利下げ転換を織り込む動きなどを背景に初旬より上昇基調(利回りは低下)となりました。中旬に発表された4月の米CPIの上昇率が市場予想を下回ったことも先進国ソブリン債券市場の上昇要因となりましたが、その後は複数のFOMCメンバーがインフレ動向や利下げ転換の時期に関する慎重な見通しを示したことなどから下落基調(利回りは上昇)に転じました。下旬には、米国国債の低調な入札結果なども下落(利回りは上昇)要因となり、先進国ソブリン債券市場は月を越せば前月末とほぼ変わらない水準となりました。現地通貨建て新興国ソブリン債券市場は上昇(利回りは低下)しました。5月に発表された米国の経済指標の多くが米国のインフレ鈍化や景気減速を示唆し、米国の追加利上げに対する警戒感が後退したほか、中国政府が新たな不動産市場支援策を発表したことなどが現地通貨建て新興国ソブリン債券市場の上昇(利回りは低下)要因となりました。また、銅などの資源価格が底堅く推移し、新興国の資源国債券にとってプラス材料になったと見られます。

5月の為替市場概況

ドル・円為替市場は前月末比ほぼ横ばいとなりました。ドル・円為替市場は、日本の通貨当局の為替介入によるものと見られる影響や、4月の米雇用統計が労働市場の減速を示したことなどを背景に初旬に円高・ドル安となりましたが、その後は日米金利差などを背景として円安・ドル高基調となりました。中旬には4月の米CPIが市場予想を下回ったことを受けて円高・ドル安となる場面もありましたが、複数のFOMCメンバーによるインフレ動向や利下げ転換の時期に関する慎重な見通しを受けて米国金利が上昇したことなどを背景に下旬にかけては円安・ドル高の流れが続きました。ドル・円為替市場は月を越せば、前月末とほぼ横ばいの水準となりました。ユーロ・円為替市場は、円安・ユーロ高となりました。ユーロ・円為替市場は、日本の通貨当局の為替介入によるものと見られる影響や、4月の米雇用統計が労働市場の減速を示したことなどを背景に初旬に円高・ユーロ安となりましたが、その後は内外金利差などを背景として円安・ユーロ高基調となりました。また、ECBの利下げ転換後の政策金利の引き下げベースに関するECB理事会メンバー間の意見の相違などから、年内に複数回の利下げが実施されるとの期待が後退したことも円安・ユーロ高が進行する要因となりました。下旬にはユーロ圏の5月の総合購買担当者景気指数(PMI)やドイツの5月のCPIが市場予想を上回ったことなどもユーロ高要因となり、ユーロ・円為替市場は月を通して円安・ユーロ高となりました。

株式部分の組入状況

●先進国インカム株式ファンド ●新興国ハイインカム株式ファンド

組入上位10銘柄

組入銘柄数 127銘柄

銘柄名	国名	業種名	銘柄解説	構成比	予想配当利回り
1 ウィリアムズ・カンパニー	米国	石油・ガス・消耗燃料	総合天然ガス会社。北米で天然ガスの生産、収集、処理、輸送事業を展開する。	3.0%	5.0%
2 PSEG	米国	総合公益事業	パブリック・サービス・エレクトリック・アンド・ガス、PSEGエナジー、PSEGパワーなどの子会社を通じ、ニュージャージー州で発電、配電、送電の事業、および天然ガスの生産を行う。	2.9%	3.5%
3 サザン	米国	電力	米国の主要電力会社を保有。電力供給の他に、エネルギー関連のマーケティング、貿易、技術サービスや、無線通信業も手がける。	2.9%	3.9%
4 GSK	英国	医薬品	共に100年以上の歴史を持つグラクソ・ウエルカムとスミスクライン・ビーチャムが合併。ワクチン、呼吸器、HIVなどの各分野に強みをもつ大手製薬企業。	2.8%	3.6%
5 エンブリッジ	カナダ	石油・ガス・消耗燃料	エネルギーの輸送や配給関連サービスを提供。北米を中心に世界各地で事業展開。原油、液体燃料、天然ガスの送管および仲介、天然ガスや電力の配給のほか、エネルギー商品の小売りにも従事。	2.7%	7.5%
6 サムスン電子	韓国	コンピュータ・周辺機器	世界的な電子機器・電気製品メーカー。半導体、テレビ、各種家電製品、スマートフォンをはじめとした通信機器など幅広く手がける。	2.7%	2.2%
7 アストラゼネカ	英国	医薬品	がん、循環器・代謝疾患、呼吸器・炎症・自己免疫疾患などを中心に幅広い分野において医療用医薬品の創薬、開発、製造および販売を行う製薬会社大手。	2.6%	2.0%
8 AT&T	米国	各種電気通信サービス	米国電話大手。地域および長距離電話、無線・データ通信、インターネットアクセス、ケーブル・衛星放送などを米国で提供。	2.5%	6.6%
9 空港・航空管制公団(AENA)	スペイン	運送インフラ	スペインを中心に空港やヘリポートの運営を行う空港運営企業。その他の国でも事業を展開。	2.5%	5.3%
10 サノフィ	フランス	医薬品	グローバルに事業を展開する製薬企業。医薬品の創薬発見・開発・販売を行う。循環器系や中枢神経系の疾患、内科的疾患、がんなどの治療薬が主要分野。	2.5%	4.1%

組入銘柄の予想平均配当利回り 5.1%

地域別構成比

地域名	構成比
1 新興国	40.8%
2 北米	32.1%
3 欧州	23.9%
4 日本	1.6%
5 --	--
預金等、その他	1.6%
合計	100.0%

国別構成比

国名	構成比
1 米国	24.9%
2 中国	10.0%
3 英国	9.4%
4 カナダ	7.2%
5 韓国	5.8%
その他の国	41.1%
預金等、その他	1.6%
合計	100.0%

通貨別構成比

通貨名	構成比
1 米ドル	27.9%
2 ユーロ	16.2%
3 英ポンド	10.1%
4 香港ドル	8.2%
5 カナダドル	7.2%
その他の通貨	28.8%
預金等、その他	1.6%
合計	100.0%

業種別構成比

業種名	構成比
1 電力	17.1%
2 石油・ガス・消耗燃料	10.8%
3 各種電気通信サービス	10.8%
4 総合公益事業	10.2%
5 医薬品	9.9%
その他の業種	39.6%
預金等、その他	1.6%
合計	100.0%

各項目の注意点 [組入上位10銘柄]予想配当利回りは、4月末の値です。したがって、今後変動する場合があります。[組入銘柄の予想平均配当利回り]組入銘柄の予想平均配当利回りは、4月末の予想配当利回りを加重平均した値です。したがって、今後変動する場合があります。

◆ファンドの主要投資対象のうち、先進国インカム株式ファンド、新興国ハイインカム株式ファンドの状況です。◆株式への投資と同様な効果を有する証券がある場合、株式に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。業種はGICS(世界産業分類基準)の産業を基にピクテ・ジャパン株式会社で作成し、分類・表示しています。◆新興国の株式等は米ドルなどの先進国通貨で発行されているものがあり、それらに投資を行うことがあります。このため、各通貨の構成比と投資証券の国別構成比は異なることがあります。◆表で示した組入上位銘柄は、特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向を示唆するものでもありません。

債券部分の組入状況

●先進国ソブリン・マザーファンド ●新興国ソブリン・ファンド

組入ファンドの特性

組入銘柄数	183銘柄
組入銘柄の平均格付	A+
直接利回り(直利)	5.8%
最終利回り(終利)	7.3%
修正デュレーション	6.0年

地域別構成比

地域名	構成比
1 新興国	37.7%
2 北米	33.4%
3 欧州	24.5%
4 アジア・パシフィック他	1.3%
5 --	--
預金等、その他	3.2%
合計	100.0%

国別構成比

国名	構成比
1 米国	32.0%
2 メキシコ	5.9%
3 フランス	5.7%
4 イタリア	5.5%
5 南アフリカ	5.3%
その他の国	42.4%
預金等、その他	3.2%
合計	100.0%

通貨別構成比

通貨名	構成比
1 米ドル	32.0%
2 ユーロ	20.6%
3 メキシコペソ	5.9%
4 南アフリカランド	5.3%
5 ブラジルリアル	5.2%
その他の通貨	27.8%
預金等、その他	3.2%
合計	100.0%

格付別構成比

信用格付	構成比
AAA格	38.9%
AA格	10.9%
A格	5.9%
BBB格	28.2%
BB格	11.4%
B格	1.5%
CCC以下	--
無格付	--
預金等、その他	3.2%
合計	100.0%

組入上位10銘柄

組入国債	クーポン	償還日	信用格付	構成比
1 米国国債	5.000%	2025.10.31	AAA	4.1%
2 米国国債	4.125%	2030.08.31	AAA	3.7%
3 米国国債	4.000%	2027.01.15	AAA	3.5%
4 米国国債	4.375%	2028.08.31	AAA	2.9%
5 米国国債	3.625%	2053.05.15	AAA	2.9%
6 米国国債	4.375%	2028.11.30	AAA	2.5%
7 米国国債	4.375%	2043.08.15	AAA	2.2%
8 米国国債	3.375%	2033.05.15	AAA	2.2%
9 南アフリカ国債	9.000%	2040.01.31	BB	2.2%
10 メキシコ国債	7.000%	2026.09.03	BBB+	1.8%

各項目の注意点 [直接利回り]投資元本に対する利息の比率を指します。組入債券の加重平均で示しています。[最終利回り]債券を償還日まで保有した場合の利回りを指します。組入債券の加重平均で示しています。[修正デュレーション]債券価格の弾力性を示す指標で、金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

◆ファンドの主要投資対象のうち、先進国ソブリン・マザーファンド、新興国ソブリン・ファンドの状況です。◆構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。◆組入銘柄の信用格付は、ムーディーズ・インベスターズ・サービス、S&Pグローバル・レーティングのうちいずれか高い格付を表示しています。平均格付は、組入銘柄の信用格付を加重平均したもので、当ファンドの信用格付ではありません。◆新興国の債券等は米ドルなどの先進国通貨で発行されているものがあり、それらに投資を行うことがあります。このため、各通貨の構成比と投資証券の国別構成比は異なることがあります。◆表で示した組入上位銘柄は、特定の銘柄の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、その価格動向を示唆するものでもありません。

ここまでの当資料の図表で使用したデータの出所は次の通りです。

○組入ファンドの価格変動要因: ファンドパートナー・ソリューションズ(ヨーロッパ) エス・エイ ○信用格付: ブルームバーグ ○予想配当利回り: ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド ○直利、終利、修正デュレーション: ピクテ・アセット・マネジメントのデータを元にピクテ・ジャパン株式会社作成

インカム・コレクションのポイント

相対的に魅力的なリスクと利回りのバランス

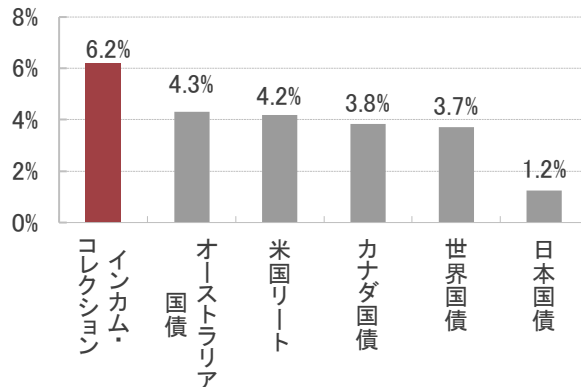
インカム・コレクションの魅力のひとつに、相対的に高い利回り水準があります。

インカム・コレクションは利回り水準(株式の場合は配当利回り、債券の場合は最終利回り)が相対的に高い先進国と新興国の株式および債券に投資しています。2024年5月末時点でのインカム・コレクションの利回りは6.2%(注)となっており、先進各国の国債よりも高く魅力的な水準となっています(図表1参照)。

また、価格変動の大きさを示すリスクを見ると、インカム・コレクションは、株式と債券、先進国と新興国への分散投資により米国リートよりも低く、オーストラリア国債と同水準、カナダ国債より若干高い水準にあります。利回り水準とリスクを併せて考えると、インカム・コレクションは相対的に魅力的な利回りとリスクのバランスが期待できる投資先のひとつと考えます(図表2参照)。

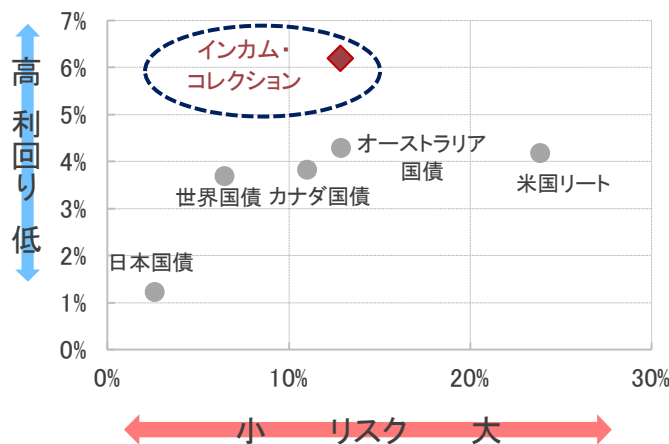
(※将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表1: インカム・コレクションと主な資産の利回り^注



図表2: インカム・コレクションと主な資産のリスク・利回り^注の関係

((リスク)円換算、月次、期間:2006年12月末~2024年5月末)



※米国リート: FTSE/NAREITオール・エクイティ・リート指数(配当込み)、世界国債、オーストラリア国債、カナダ国債、日本国債: FTSE世界および各国国債指数
 ※米国リートは配当利回り、債券は最終利回り、いずれも税引前 ※リスクは月次リターン標準偏差(年率化)、インカム・コレクションのリスク計算は、基準価額(分配金再投資後)の月次リターンを使用
 出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ・ジャパン株式会社作成

注 インカム・コレクションの利回りは、各投資対象ファンドの利回り(株式は配当利回り(2024年4月末現在)、債券は最終利回り(2024年5月末現在))を基本資産配分内訳(2024年5月末現在)で加重平均して算出しています。そのため当ファンドの実績とは異なる場合があります。主な資産の利回りは2024年5月末現在です。

データは過去の実績であり将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

投資リスク

[基準価額の変動要因]

- ファンドは、実質的に株式や公社債等に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式や公社債の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様にご帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

株式投資リスク (価格変動リスク、 信用リスク)	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に株式に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。 ●株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。
公社債投資リスク (金利変動リスク、 信用リスク)	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に公社債に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている公社債の価格変動の影響を受けます。 ●金利変動リスクとは、金利変動により公社債の価格が変動するリスクをいいます。一般的に金利が低下した場合には、公社債の価格は上昇する傾向がありますが、金利が上昇した場合には、公社債の価格は下落する傾向があります。 ●信用リスクとは、公社債の発行体の財務状況等の悪化により利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなるリスク(債務不履行)、または債務不履行に陥ると予想される場合に公社債の価格が下落するリスクをいいます。
為替変動リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドは、実質的に外貨建資産に投資するため、対円との為替変動リスクがあります。 ●円高局面は基準価額の下落要因、円安局面は基準価額の上昇要因となります。 ●為替ヘッジが必要と判断した場合には為替ヘッジを行うことがありますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、為替変動の影響を受ける場合があります。また、現地通貨による直接ヘッジが困難な一部の通貨については、当該現地通貨との連動性等を勘案し、先進主要国通貨等の他の通貨を用いた代替ヘッジを行う場合がありますが、その場合、通貨間の値動きが異なる場合が想定され、十分な為替ヘッジ効果が得られないことがあります。また、円金利がヘッジ対象通貨建ての金利より低い場合、当該通貨と円の金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。
カントリーリスク	<ul style="list-style-type: none"> ●ファンドが実質的な投資対象地域の一つとする新興国は、一般に政治・経済・社会情勢の変動が先進諸国と比較して大きくなる場合があります。政治不安、経済不況、社会不安が証券市場や為替市場に大きな影響を与えることがあります。その結果、ファンドの基準価額が下落する場合があります。 ●実質的な投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化により証券市場や為替市場等に混乱が生じた場合、またはそれらの取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。この他、当該投資対象国・地域における証券市場を取り巻く制度やインフラストラクチャーに係るリスクおよび企業会計・情報開示等に係るリスク等があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

[その他の留意点]

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの特色

〈詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください〉

- 主に世界の高配当利回りの資産株と世界のソブリン債券に投資します
- 特定の銘柄や国に集中せず、分散投資します
- 毎月決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います

- 毎月 15 日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

ー分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

ー収益分配金額は、利子・配当等収益の水準および基準価額の水準等を勘案して委託会社が決定します。ただし分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

・毎年 3 月、6 月、9 月および 12 月の決算時には、原則として決算時の基準価額が 1 万円を超えている場合は、毎月の分配金に 1 万円を超える部分の額および分配対象額の範囲内で委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります(1 万円を超える部分の額が少額の場合には、分配金を付加しないこともあります)。

ー留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※投資にあたっては、以下の投資信託証券への投資を通じて行います。

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-先進国インカム株式ファンド クラス P 分配型受益証券(当資料において「先進国インカム株式ファンド」という場合があります)

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-新興国ハイインカム株式ファンド クラス P 分配型受益証券(当資料において「新興国ハイインカム株式ファンド」という場合があります)

○ピクテ先進国ソブリン・マザーファンド受益証券(当資料において「先進国ソブリン・マザーファンド」という場合があります)

○ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド-新興国ソブリン・ファンド クラス P 分配型受益証券(当資料において「新興国ソブリン・ファンド」という場合があります)

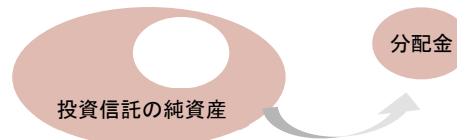
※実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。

※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

[収益分配金に関する留意事項]

投資信託で分配金が支払われるイメージ

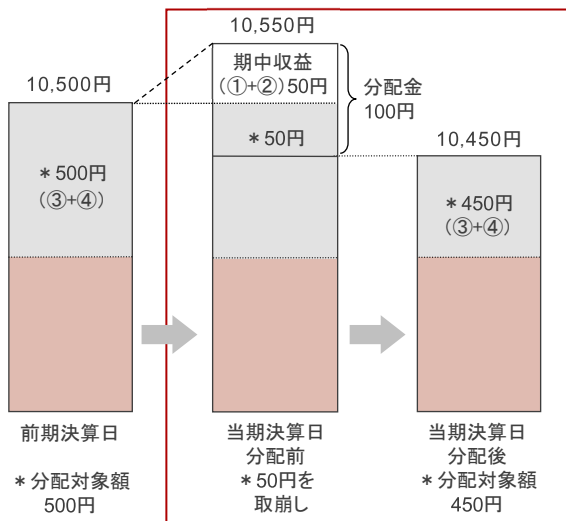
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



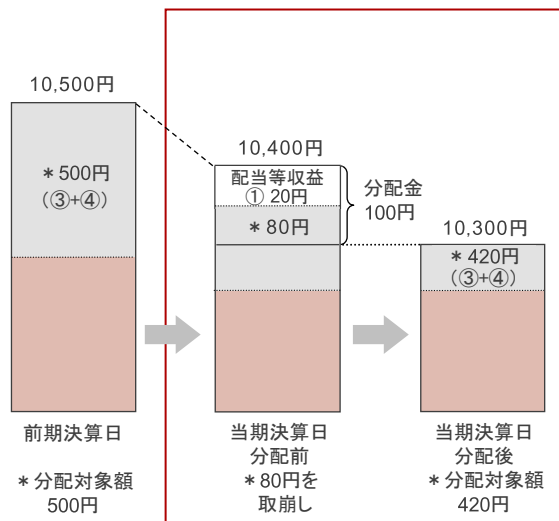
分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



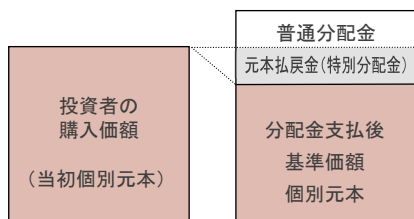
前期決算日から基準価額が下落した場合



(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

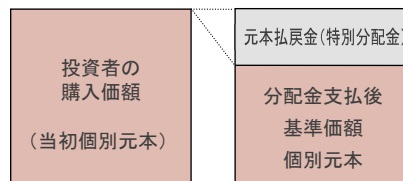
投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金: 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金) 額だけ減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、「手続・手数料等」の「税金」をご参照ください。

手続・手数料等

[お申込みメモ]

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	ルクセンブルクの銀行、ロンドンの銀行またはニューヨーク証券取引所の休業日においては、購入・換金のお申込みはできません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2006年12月28日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年12回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。

[ファンドの費用]

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	3.3% (税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。 (詳しくは、販売会社にてご確認ください。)
信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年 1.265% (税抜1.15%)の率を乗じて得た額とします。 運用管理費用(信託報酬)は毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 [運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)]			
	委託会社	販売会社	受託会社	
	年率0.45%	年率0.65%	年率0.05%	
	なお、委託会社の運用管理費用(信託報酬)には、マザーファンド(ピクテ先進国ソブリン・マザーファンド)の運用指図に関する権限の委託先に係る投資顧問会社への報酬が含まれています。			
投資対象とする投資信託証券	先進国インカム株式ファンド	純資産総額の年率0.6%	先進国ソブリン・マザーファンド	ありません
	新興国ハイインカム株式ファンド	純資産総額の年率0.75%	新興国ソブリン・ファンド	純資産総額の年率0.65%
実質的な負担	ファンドの実際の投資信託証券の組入状況に応じて年率 1.765±0.2% (税込)程度となります。			
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率 0.055% (税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。))は、そのつど信託財産から支払われます。投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われます。			

※当該費用の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

[税金]

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税 および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して 20.315%
換金(解約)時 および償還時	所得税 および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して 20.315%


※外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※上記は、当資料発行日現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図を行う者) 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会	【ホームページ・携帯サイト(基準価額)】 https://www.pictet.co.jp	
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理を行う者) 〈再信託受託会社: 株式会社日本カストディ銀行〉		
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド、ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ(為替ヘッジに関する助言・情報提供を行う者)		
販売会社	下記の販売会社一覧をご覧ください。(募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払いを行う者)		

販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先

商号等			加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○
ぐんぎん証券株式会社(注2)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
第四北越証券株式会社(注3)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○			
東海東京証券株式会社(注4)	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
八十二証券株式会社(注5)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○	○		
浜銀TT証券株式会社(注6)	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第134号	○			
ひろぎん証券株式会社(注7)	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社足利銀行(注8)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○		○	
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第7号	○			
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○	
株式会社十六銀行(注9)	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○	
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○	
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社百十四銀行(注10)	登録金融機関	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第5号	○		○	
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
株式会社北國銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第5号	○		○	
みずほ信託銀行株式会社(注11)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第34号	○	○	○	
株式会社武蔵野銀行(注12)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社山形銀行(注13)	登録金融機関	東北財務局長(登金)第12号	○			
株式会社山梨中央銀行(注14)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第36号	○		○	

- (注1) 株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。
- (注2) ぐんぎん証券株式会社では、新規販売は行っており換金のみ受付けております。自動けいぞく投資コースの場合の分配金再投資は行われず。
- (注3) 第四北越証券株式会社では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注4) 東海東京証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本STO協会にも加入しております。
- (注5) 八十二証券株式会社では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注6) 浜銀TT証券株式会社では、新規販売は行っており解約のみ受付けております。
- (注7) ひろぎん証券株式会社では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注8) インターネット専用
- (注9) 株式会社十六銀行では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注10) 株式会社百十四銀行では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注11) みずほ信託銀行株式会社では、新規販売は行っており換金のみ受付けております。自動けいぞく投資コースの場合の分配金再投資は行われず。
- (注12) 株式会社武蔵野銀行では、新規買付のお申込みは取扱いしません。
- (注13) 株式会社山形銀行では、新規販売は行っており解約のみ受付けております。
- (注14) 株式会社山梨中央銀行では、新規買付のお申込みは取扱いしません。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。